

工業会活動

APAQG上海会議について

1. はじめに

APAQG上海会議が、2014年3月17日～20日に開催された。JAQGは、APAQGのリーダーとして、日本の意見をAPAQG活動を通じてIAQGに提言することを基本戦略として活動している。

以下に今回の会議について報告する。

APAQG：Asia-Pacific Aerospace Quality Group

JAQG：Japanese Aerospace Quality Group（航空宇宙品質センター）

2. 会議の概要

今回のAPAQG上海会議には、アジア太平

洋地域の航空宇宙関係22組織から約70名が参加した。

会議ではIAQGの最新の活動状況（規格要求、製品及びサプライチェーン改善、要員能力、国際航空宇宙認証制度管理、関係強化戦略）についての情報の共有を図るとともに、次回IAQGブリュッセル会議に向けて意見の集約を実施した。

JAQG独自活動の「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」につき報告し、その成果（ガイダンス文書）をAPAQGパブリックウェブサイトに掲載することが承認された。



評議會の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバ）

また、2016年の次期9100規格^(*)改正に向けて、APAQG 9100改正検討チーム会議を併催した。これは、APAQG内の情報共有、意見調整及びIAQGへの対応協議などのためのもので、次回IAQGブリュッセル会議に向けて意見集約を図ることができた。

APAQG上海会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

日本：MHI、KHI、FHI、IHI、IA、HIREC、SJAC

中国：AVIC、COMAC、Harbin Embraer、Boeing Tianjin Composite

その他、オブザーバ参加数社

韓国：KAI、KAL-ASD

台湾：AIDC

シンガポール：APAQG準会員（2社からの個人会員）

インドネシア：不参加

*1) 9100規格：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項

3. 会議内容

(1) 評議会

(a) 主要な審議結果

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・ JAQGより「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」につき報告し、以下の4つのガイダンス文書（英語版）をAPAQGパブリックウェブサイトに掲載することが承認された。
 - －コンプライアンス教育
 - －飛行安全教育
 - －作業指示書の取り扱い
 - －現場からの意見吸い上げ手順
- ・ シンガポールのJeffrey Ho氏（Rolls-Royce）がAPAQG準会員（個人会員）として承認された。

- ・APAQGの会計報告に関し、FY2013決算案が審議された。

結果、IAQGからの補助金との対応を明確にするため、2014年よりAPAQGの会計年度をIAQGの会計年度（1月1日から同年12月31日）に合わせる事が確認された。

- ・APAQGが担当となっている2015年春のIAQG会議開催国については中国開催が確認された。

（開催地：成都市、ホスト会社：AVIC）

- ・次回会議（2014年9月）は、台湾開催が確定した。（ホスト会社：AIDC）

(b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長代理（北森 直樹（KHI））より、JAQG活動概要が報告された。

中国：CAQG（China Aerospace Quality Group）の活動状況が報告された。

CAQGは正会員11社、一般会員52社で構成され、正会員が中心となって活動を展開している。

4つのWG（規格要求、要員能力、SCMH、パフォーマンス）とIAQG規格に対応した20のサブWGが組織されている。

9100認証については、この2年間で約200事業所が認証取得し、現在、486事業所が9100認証を取得済である。

SCMHに関しては、中国国内の展開のため、中国語への翻訳を進めている（29%が翻訳完了）。

韓国：自国企業の認証は、主にAS9100/9110/9120によっており、韓国のAS9100認証取得会社は194社（半年で21社増加）、また、AS9110とAS9120

認証取得会社はそれぞれ9社、2社となっていることが報告された。

台湾：AIDCのサプライヤ管理の取組状況について説明があった。AIDCはそのサプライヤの品質向上のためAS9100認証取得を強く推奨し、コンサルタントも実施しており、サプライヤの大部分がAS9100認証を取得している。

シンガポール：シンガポール国内のAS9100/9110/9120認証状況、APAQGシンガポール会議総会のフィードバック結果等の報告があった。

(c) IAQG戦略検討ワーキンググループ傘下の分科会の活動報告

評議会では、各分科会の個別報告が行われた。（ ）内は報告者（敬称略）である。

このセッションはIAQG会議に参加していないAPAQGメンバに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。今回は、2013年10月に開催されたIAQGモントリオール会議の結果及びその後の進捗を中心に報告された。

なお、IAQGモントリオール会議内容については、本会報2013年12月号を参照されたい。

- ・IAQG改善戦略各分科会の活動報告
 - －規格要求分科会
 - ・全般（白井 達矢（KHI））
 - ・次期9100規格（河本 正博（MHI））
 - －製品及びサプライチェーン改善分科会（岩垂 素子（MHI））
 - －要員能力分科会（小薬 正幸（IHI））
- ・IAQG関係強化戦略各分科会の活動報告
 - －国際スペースフォーラム（澁谷 典明（MHI））
 - －航空当局（製造）関係強化分科会（寺境 弘之（MHI））

- 防衛当局関係強化分科会
(河本 正博 (MHI))
- MRO関係強化分科会
(David Tan (P&W Singapore工場))
- ・ 国際航空宇宙認証制度管理チームの活動報告 (小森 秀司 (FHI))

(2) 併催会議

(a) スペースフォーラム

期間中の3月18日にAPAQGスペースフォーラムを開催した。

中国 (CASI) から4名が参加、JAQGメンバー4名で対応し、以下の議題について協議した。

- IAQG及びJAQGにおけるスペースフォーラム活動状況紹介
- 9100規格改正とスペースフォーラムの関わり紹介
- SCM概要紹介
- 中国におけるQMSの状況確認及び9100適用に向けた討議

中国の宇宙関連QMSは9001がベースとなっており、今後アジア地区として協力して活動を推進していくための議論を継続することで合意し、両者コンタクトポイントもアサインした。

(b) 9100改正検討チーム会議

前述の通り、2016年の9100規格(*)次期改正に向けて、APAQGの9100改正検討チーム会議を3月17～18日に開催した。

今回の会議にはAPAQGメンバ8社から10名が参加し、以下の情報共有／協議を実施し、次回IAQGブリュッセル会議に向けて意見集

約を図ることができた。

- ・ APAQG 9100改正検討チームの目的・活動内容及びメンバーシップの確認
- ・ IAQGの9100規格改正状況の確認
- ・ ISO 9001:2015改正状況の情報共有
- ・ IAQGの9100サブチーム検討結果／提案(以下の4項目)に対するレビュー
 - 安全 (製品安全／飛行安全) とヒューマンファクターズ
 - リスク／予防処置
 - 製品実現計画 (APQP／PPAQG関連)
 - 引渡し後の支援
- ・ IAQG 9100次期改正へのインプット協議
今後も継続してAPAQG会議時に併催し、APAQG内の情報共有／意見調整、次期改正へのコメントレビュー及びIAQG会議への対応等協議していく。

4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格(9100規格)を初めとする関連規格の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery (OTOQD)”を効率的に達成することを目標に活動を展開している。

アジア太平洋地域にIAQG活動を広めかつアジア太平洋地域の意見をIAQGに反映させるためには、APAQG活動を活発化させ、多くのアジア太平洋地域のメンバが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。

今後もJAQGは、APAQGのリーダーとしてAPAQG活動を牽引し、日本の意見をIAQGに提言する活動を推進する所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 菅野 義就〕